

第2学年「体育」学習指導案

授業者 神谷 潤

2月15日（土） 1階体育館 10:00～10:40 （話し合い11:00～11:45）

1 単元名 あそびのあらわれ

2 単元について

子どもたちはこれまで、環境やテーマなどの提示によって様々な遊びを経験してきた。幼保からのボトムアップとしての低学年での運動遊びとして、入学当初は子どもたちが学校に持ち込んできた文化を生かして互いの違いから様々な遊びに触れ、関係を広げて楽しんできた。そこから徐々に教師も子どもの運動遊びに関与し、教師が提示した環境構成やテーマを出発点にしながら、他者や世界との関係の中で新たな遊びを生み出したり活動や運動の質が変化していったりする関係づくりとしての運動遊びを展開してきた。

本単元は、「あそびのあらわれ」と題して、光と影を用いて遊ぶ場を出発点として、子どもたちが光と影、そして身体との関係において表現を遊ぶ場を設定する。この場では、身体が道具となる。自分の身体や他者の身体を表現媒体としながら遊ぶ現れとして、子どもたちが光と影、そして身体に遊びながら何かを表現する遊びが「いまーここ」の関係の網の目から出現することが活動の中心である。ポスト・ヒューマンな子どもたちにとって、すでにモノがあることが遊びの前提となっていることが多く、遊びの創発にモノを持ち込みがちな場合がある。これまでも、器械・器具を使った運動遊びのような活動においては、特に用具を持ち出さずに遊ぶ様子も見られるが、環境を操作して自分が遊びやすい状況をつくりだすために様々な用具を持ち込んで身体を補強・装備するような様子もよく見られる。しかし、今回は身体に遊ぶことを重視することから、用具を持ち込むことを制御しつつ、光と影と身体で構成された遊びによってより身体に遊ぶ状況をつくり出したいと考えている。子どもたちがより身体に遊び、身体による「あそびのあらわれ」をともに楽しむ時間としたいと考えたからである。環境構成としては「光と影を用いて身体をスクリーンに写して」「自分のタブレットを使って動画や画像を撮影していく」ことを想定しているが、子どもたちが光と影と身体に遊ぶ「あそびのあらわれ」は、我々大人の想像を超えてくるようなものになるかもしれない。身体が単なる肉体にとどまるのではないとすれば、光と影、他者や世界との関係において子どもたちのどのような「あそびのあらわれ」に出会うのか。そのこと自体をおもしろがり、子どもの関係づくりにかかわりたい。

また、子どもを含め、体育とはこういうものだ、という当たり前を問い直すことの可能性を検討したい。上記のような遊びが子どもの身体にとってどのような意味があるのか、参観者とともに考える機会としたい。

3 学習指導計画（2時間目／全5時間）

1	2	3	4	5
光・影・身体に遊ぶをやってみる ↔ 他者と遊びを共有する ↔ 世界との関係づくりをする／ひろげる・遊びこむ (本時)				

4 本時の学習について

(1) 本時のねらい

前時でやってみた経験をもとに、様々な遊びを試す。自己－他者－世界との関係の中で自分なりの関係づくりを楽しみ、遊びこむ。

(2) 予想される本時の展開

主な学習活動と子どもの姿	留意点
1. 他者とともに自分たちの遊びを始める。 自分たちの「あそびのあらわれ」を記録し、データをクラウドに共有する。 2. 他者の遊びを共有する。 必要に応じて仲間が取り組んでいる遊びを紹介し合い、遊びの可能性を広げる。	・ライトを直接覗いて目を痛めないように留意する。 ・子どもの「関係づくり」に眼を向け、子どもたちの遊びの可能性をともに考える。 ・子どもたちの遊びの異質さに着目して交流できるようにする。

□授業後の話し合いで話題にしたいこと

子どもの「あそびのあらわれ」について。「身体」を起点とした学びの可能性について。